



ひ ゆ ー ま ん ら い つ

第48号 平成16(2004)年10月

障害のある方への ～ あなたのひとこと から広がる 心の輪 ～

目の前に困っている人がいたら、あなたならどうしますか？
「大丈夫ですか？」「何かお手伝いしましょうか？」。自然に声をかけられたらいいですね。

誰もが一緒に生きる仲間として尊重し合い、お互いを思いやり、助け合って暮らす…。
あなたの勇気ある一言がそんな社会への架け橋になり、優しい心の輪を広げます。

● 目の不自由な方には…

○声のかけ方

困っている様子の方がいたら、気軽に「お手伝いしましょうか」などと横か前から声をかけてみましょう。

また「〇〇はどこですか？」などと尋ねられたら、近くの方は自分が声をかけられたと思って接するようにします。



○誘導の仕方

まず、相手の意思を確かめ、どこまで誘導するのかを聞きましょう。



案内するときは白い杖の反対側に立ち、肩かひじに手をかけてもらい、相手の半歩先を歩き、押したり引っぱったりせず安全に気を配りましょう。

階段の前ではいったん停止して「上り」「下り」を伝え、終了も告げます。誘導が終わったら、その後一人でも行けるように周囲の状況や方角を説明してから離れるようにします。

● 手足の不自由な方には…

○声のかけ方

手足の不自由な人たちは「他人に迷惑をかけるのではないかと心苦しうことも多いようです。

困っているときや助けを求められたときに、手を貸すようにするなど、細かい心づかいが必要です。



● 車いす使用の方には…

○声のかけ方

介助者が同伴の場合は介助者に、そうでない場合は本人に、「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけてみましょう。



障害のある方の気持ちはさまざまです。「特別な目で見ず気軽に接してほしい」という人もいれば、「今は手助けが必要ない」と思っている人もいます。断られても、そんな気持ちを受け止めて次の機会に声をかけてください。

あなたの暖かい心とパワーを、誰もが心地よく暮らせる地域づくりに役立ててみませんか？

言葉から

広がる人権意識

バリアフリー

ユニバーサルデザイン

ノーマライゼーション



人権の話をするとき、しばしば登場するこれらのカタカナ言葉は、今や欠かせない概念となっていますが、ときに人権を難しく感じさせる要因にもなっているようです。

そこで、これらの言葉の意味を考えてみましょう。

○バリアフリー

現に存在している障壁(バリア)を取り除いて、高齢者や障害のある人が社会生活において、利用しやすいようにすることです。

近年では、段差といった物理的バリアだけでなく、社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的な全ての障壁をなくし、自由に社会活動に参加し、生き生きと暮らしやすい環境をつくるという、より広い意味で用いられています。

○ユニバーサルデザイン

はじめから全ての人利用しやすいように配慮して、施設、建物、製品などを設計することです。

「ユニバーサル」には「一般的な、普遍的な」という意味があり、高齢者、子どもをはじめ障害がある、ないに関わらず全ての人にとって便利な社会をつくっていかうとするものです。

近年では、シャンプーの容器や文具など様々な製品にこの理念がいかされています。

○ノーマライゼーション

「ノーマライゼーション」とは、ノーマル(正常・普通)な状態にすることです。

私たちの住む地域社会に暮らす男も女も、子どもも高齢者も、身体の不自由な人もそうでない人も、それぞれがありのままに、共に暮らしていることが、本来あるべき「正常な姿(ノーマル)」だという理念のことをいいます。

例えば、障害のある人を社会から隔離し保護するのではなく、可能な能力を引き出し合いながら、社会の一員として他の人々と同じように生活し、お互いを尊重し支えあうことで、地域の中で共に生活できる社会を築き、保障していくことです。



「がんばらない」

鎌田 實 著
(2003 集英社 ¥559)



テレビでドラマ化されるなど、多くの話題をさらった感動の一冊です。

あなたは「がんの告知」をどう考えますか？

そして、どう受けとめますか？

リンパ肉腫により20歳で死を受容し、そして死んでいった青年の熾烈な闘いの足跡など、現代医療が忘れた「魂への心くばり」の実録がちりばめられています。



米子市人権情報センター(人権政策課内)

URL : <http://yonago-city.jp/jinken/>

米子市東町161-2 TEL0859-37-3183 Fax0859-37-3184